



市政羅針盤

染谷絹代市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。☎秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ みんなで「支えあい上手」になりませんか？

～自分たちが支える地域は、自分たちを支えてくれる地域～

■ 地域のつながりが安心を生む

近年、少子高齢化や核家族化、価値観やライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染拡大による生活様式の変化などにより、地域住民同士の関係性が希薄になり、これまで地域社会が果たしてきた助け合いの機能が失われつつあるのではないかと危惧しています。身近なところでも、地域の人たちが集まる機会は減少し、開催しても規模を縮小したり、飲食なしになったりして、以前のように触れ合う機会はめっきり少なくなりました。

交流する機会が減るということは、それぞれの家庭の問題も見えにくくなるわけで、生活困窮・社会的孤立・老々介護・引きこもり・8050問題・ヤングケアラー・虐待などで悩み、誰にも相談できずにいる市民のSOSが行政や関連団体に届きにくくなっているように感じます。民生委員・児童委員、社会福祉協議会、市役所、ボランティア団体、地域包括支援センターなど、相談できる場所はいくつもあるのですが、そこにつながらない、もしくはつながることを拒否する方々もおられます。自分の身の回りの安全・安心は、何気ない日常の付き合いや地域のつながりの中にあると考えます。周りの誰かが気付くことと、「助けて」と言える人のつながりがあることが大切です。

■ 日常の困りごとを解決する頼れるサポーター

深刻な問題を抱えない人でも、高齢になれば日常生活の中で「ちょっとした困りごと」は増えていきます。このちょっとした困りごとに「手伝ってほしい」と声を上げることができ、地域の人たちが手を差し伸べることができたなら、住み慣れた地域で相互に助け合い、安心して暮らし続けることができるのではないのでしょうか。

現在、市内には、12の地区社会福祉協議会（地区社協）：御仮屋町、第三小学校区、道悦島、岸町、東町、阿知ヶ谷・東光寺、金谷、初倉南、第四地区、大津小学校区、身成（川根町）、第一地区が組織され（設立順）、身近にいる人や地域住民の福祉課題に気付き「支え合い」や「お互いさま」の地域づくりを推進しています。「高齢者ふれあいサロン」をはじめ「子育てサロン」や「居場所づくり」「生活支援事業」など、地域福祉の向上を目的としたさまざまな活動を展開しています。

とりわけ、道悦島応援隊・金谷応援隊・岸町応援隊・さくら応援隊（第一地区）は、それぞれの地域の住民を対象に、日常生活のサポートを有償で提供する「生活支援サー

ビス」を行っています。特徴は、地域の住民が主体となって、対象者の日常のお手伝いを実施する会員制の「住民参加型」サポートサービスだということです。



外出支援を行う金谷応援隊

「ごみ捨てで困っている」「足腰が弱って一人では買い物に行けない」「掃除ができない」「脚立に登れないので蛍光灯を替えてほしい」「庭の草刈りをしてほしい」「網戸を交換したい」「話し相手が欲しい」など、地域の困りごと（ニーズ）を調査してみると、多くの高齢者らが生活の場面で何らかの困りごとを抱えていることが判明。無償では、利用する側に遠慮や気兼ねが生じるという声も聴かれたため、有償ボランティアという形にすることで気持ちよく利用してもらえるようにしています。利用料は、ゴミ出し1回150円、生活支援1時間500円。このうち、生活支援サービスを行うサポーター（ボランティア）に、ゴミ出し1回100円、生活支援1時間400円の手当てが支払われる仕組みです。

■ もっと、お互いに助け合える地域へ

こうした取り組みには、地域の実情や特性をよく知る「地域福祉の担い手」が必要です。一人暮らしで引きこもりがちな高齢者がいる、認知症の一人暮らしで迷子になる人がいる、ゴミ捨てで困っている高齢者がいるなど、地域で困っていること（課題）を把握し、課題を解決するための具体的な取り組みを考え、行動計画を立て、役割分担を決めて実行に移す。これら一連の活動は、日ごろから住民同士のつながりがあり、協力してくれる仲間がいなければ達成できないことだと感服します。

サービスを利用する皆さんのさらなるニーズに応え、高齢者の外出支援を開始した応援隊（金谷、道悦島）も出てきました。自分にできる活動を、できる時間に、できる場所で行っていただけるサポーターを、どの応援隊も募集しています。

▷応援隊の活動内容などの詳細は、QRからもご覧いただけます（県ホームページ）。

